

平成 29・30 年度 江戸川区地域自立支援協議会

江戸川区の地域共生社会について

地域共生社会における障害者支援の課題【平成 29 年度 第 2 回】

- ・ 医療機関、福祉事業者、障害者団体など、どの機関の誰が何をできるか、情報を共有していく事が重要。また、そうしたつながりの作り方が課題
- ・ 可能な限り「自立」するためのサポートが大事
- ・ 支援に回る側について、できるだけ負担がかからないようなシステムである必要がある
- ・ 障害者本人が自立しようという意欲と、それをサポートや情報共有をして、誰がどのような専門知識を持っていて、どのような治療ができるのかなどの確に必要としている人に伝える
- ・ 制度的な支援がないと生活が十分立ちいかなくなる問題がある
- ・ 障害者が自由に、いつでも行きたいところに行けるような充実した制度が必要
- ・ 精神障害についての理解が進んでいない
- ・ 親以外に障害の子を見る人がいない家庭で、緊急に親が子の面倒を見られなくなった時、どうしたらよいか心配がある
- ・ なごみの家がまだあまり浸透していない
- ・ 土曜・日曜日は成人になってから行く場所がない障害者も多い（休日に通える居場所の利用）
- ・ 本人や親の高齢化、健康問題、介護問題が急速に表面化してきている中、いつまでも今の施設に通いたい希望など、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることを支援する場合、どのようにかなえていくかが課題
- ・ 入所施設の利用者の高齢化や重度化により、医療との関わりや介護保険に移行しなくてはいけない方が出てきている
- ・ 精神障害者が、どんな形でも良いから、地域社会に参加して活躍できる機会を作っていく（活動できる場、参加できる場を作ることが重要な課題）
- ・ 人とのつながりが作れる場所が大事だが、つながりを作りながら居場所として機能させていくのは、かなりの専門的な知識や技術が必要
- ・ なごみの家について、障害者にとってどのような場になればよいか、仕組みを含めて考えていく
- ・ ネットワークの在り方として、基幹型ではなく拠点型で身近に相談できる場所が様々あり、どのように情報共有していくか
- ・ 就労している障害者が辞めないで続けられることが大事
- ・ 地域の中で、就労の場と住む場所と余暇活動の場がないと、地域生活が定着しない
- ・ 特別支援学校の生徒が、自分で庭の草むしりができない高齢者のところへ行って、整備をして生徒が育てた花を植えさせていただくなど、社会貢献することも地域生活につなげていく事ができるのではないか

- ・身近なところに、障害のある子どもを知ってもらう事が重要
- ・障害者が地域生活に対して、どのような地域力を編み出して対応し支援していくかを、どのような形で作り上げていくか、考えていかなければならない
- ・歯科の全身疾患に対する影響が強く、口腔ケアの重要性について保護者を含め理解していけるよう、なごみの家や区内のイベントなどで訴えていきたい

各委員からの意見より、事務局で5つの課題にまとめる

- 1 障害者の「居場所」づくり（地域で暮らし続けるための支援）
- 2 障害者を支えるネットワークづくり（各団体・事業者間の情報共有と連携）
- 3 障害者への理解促進（地域住民の障害者に対する偏見を解消するために）
- 4 障害者の社会参加（誰もが活躍できる社会へ）
- 5 障害者の安心できる「住まい」（本人や家族の高齢化が進む中での対応策）

5つの課題の項目を小テーマとして、平成29年度第3回から平成30年度第3回までに、課題を解決していくための方法などの意見を伺う

1 障害者の「居場所」づくり(地域で暮らし続けるための支援)【平成29年度 第3回】

- ・病気やけがで障害を負い、特に移動に困難を感じている障害者が、自力で自立して生きる力を取り戻せるよう、地域でのリハビリテーション医療の充実が非常に大事だと感じている
- ・なごみの家を通して、専門医療機関につないで、また地域に戻って自立した生活が送れるようになるなどが出来ればよいと思う
- ・身近な場所で関係者の「顔の見える関係づくり」も重要
- ・なごみの家について、どのような支援があるか、もう少し具体的に示してほしい
- ・障害者サービスは様々な制限もあるが、地域独特の取り組みの中で、家事援助と外出支援を合体させるような対応を作っていただき、施設入所ではなく、現在住んでいる場所で生活できるような環境を作り出してもらいたい
- ・なごみの家の活動で、サポート受けながら、一緒に活動する場があることは、精神障害者の社会参加への一歩前進になると思う
- ・引きこもりの人たちに対して、相手の気持ちをわかってあげる「ピアサポーター」が訪問などで関わり、1歩ずつ社会に出ていけるようなシステムがあるとよい
- ・ヘルパーを利用しているが、前もって頼んでいないと使えない、また、援助時間が決められているため、急に必要になった時に使えないこともあり、なごみの家にそのようなときに助けに来てもらえたらありがたい

- ・なごみの家について、外出の時にふらっと立ち寄ってもらえれば、また、そこに行けば「何か楽しみがある」など、身近な場所になっていけばよいと思う
- ・地域見守り名簿にて訪問調査が行われ、日々の生活での課題や要望を把握し、地域支援会議により必要な支援を検討し、関連機関が連携した支援をつなげていく
- ・何でも相談により、縦割りの相談窓口ではなく、複合した問題に対応する整備
- ・「見守りキーホルダー」の必要性を利用者自身が、自身の健康を考え自覚して持つ
- ・それぞれの支援に必要な設備・環境などがあり、それぞれの障害当事者の方への専門的な支援技術を持った支援員の存在が重要
- ・入所している利用者の高齢化や重度化が進み、徐々に外出する機会が少なくなっている状況のため、地域との関わりを深めるサービスを、より充実していただけるとよい
- ・入所施設の防災関係について、もう少し様々な協力体制が構築できればよい
- ・なごみの家と連携、連絡、情報共有をして、「日中活動の場」(特に余暇活動の場)としてなごみの家を活用できないか
- ・保護者や当事者の方に、なごみの家がこの地域だということや相談に関する案内などできれば、安心するのではないか
- ・なごみの家について、聴覚障害者が使いやすい施設に変わっていくにはどうしたらよいか、そこに通訳者を配置してもらうことなどを考えていただきながら進めてほしい
- ・なごみの家の利用に関する様々な条件に関して、なごみの家に関わる多くの方々と情報共有しながら、地域の方々の理解を得ながら、すべての方の本当の意味での理解をいただいたうえで進めていくことが、江戸川区における安心できる地域社会ではないかと思う
- ・就労支援センターの取り組みとして
 夜間と土曜日の相談件数はかなり増えている
 毎月第1土曜日の午後に「たまり場」としてセンターの会議室を開放して、そこで利用者の方が自由に過ごせるような場を提供
 毎月第2土曜日は「余暇支援」もしくは「スキルアップ講座」を実施
 毎月最終金曜日に区内のカフェを借り切って「働く障害者の夕食会」を企画して実施
- ・なごみの家を拠点としていく中で、なごみの家に従事される支援者や職員が、社会資源の情報をいかに知るかが重要
- ・各事業所、各分野の取り組み内容の情報を、関係者で共有しておくことが、効率的な資源活用の仕方になるのではないか
- ・なごみの家がうまく機能していくために、計画性が必要
- ・なごみの家を知ってもらう働きかけ、PRの仕方をもっと工夫できないかなどを考えていくべき課題かと思う

- ・就労を定着させるには、日常生活が安定していないと難しい面があり、なごみの家などがあって、そこで余暇を過ごしたりできる環境を障害者の方々に知ってもらい、そこを利用することで気分転換になって、また明日から仕事を頑張ろうという意欲につながっていくのではないか
- ・なごみの家を通じて、高齢者や障害者の方に、区の共通商品券やポイントカードなどで支援できないか
- ・各商店街でも高齢者支援や障害者支援などを考えている
- ・全てのニーズをなごみの家で担うことは、施設規模、人的体制、予算など難しいため、ネットワークの強化など、社会資源の引き出しをいろいろ多く持っているとうい
- ・総合体育館で「障害者のエアロビクス教室」が行われる予定で、公共の場を使って、定期的にそのような企画を実施していただけることがとてもありがたい
- ・学校で防災教室や防災学習に取り組んだ内容を発表し、学習後、生徒の防災に関する意識が高まり、地域の防災訓練などに参加して、近隣の方々に自分たちの存在を知ってもらう事が大切だと生徒一人一人が肌身に感じてきた
- ・なごみの家の活用として、学校や生徒から、地域の中で障害のある人たちがどこに居て、どんなことに困っているのか、また、障害の理解、啓発などの情報発信もしていきたい
- ・なごみの家でもいろいろな情報を扱い、そこでいろいろとやり取りができるような拠点になっていったらどうか
- ・地域の住民として、障害者の方と接する機会や交流の場はとても少なく、障害者に対応できる地域の環境整備に取り組んでいかなければならないと思っている。
- ・なごみの家を障害者の皆さんからも交流して、こういうことが必要など、情報交換が地域住民にとって障害者理解として大事
- ・地域からもいろいろな情報を発信する必要がある、地域が環境を整備して支援の取り組みを明確にし、社会で生活が定着できると感じていただければと思う
- ・なごみの家で歯科に関する治療に関する質問や相談があったときは、歯科医師会各会員の診療室や口腔保健センターを紹介している
- ・歯科医師会として情報発信も積極的に行いたい思いで、いろいろな方策を模索している
- ・地域での取り組みに地域での課題をつなげていって解決に導くことが重要
- ・情報を共通理解していく姿勢が非常に重要で、さまざまな意見や、いろいろな取り組みについてなどより、これらを総合的に考えていければ、たいへん有意義なシステムが作り上げられると思う

2 障害者を支えるネットワークづくり(各団体・事業者間の情報共有と連携)【平成30年度 第1回】

- ・どういった医療を受けるかによって、生活の質が決まってしまうので、よりよい医療が受けられるような情報を入手することが一番大切

- ・江戸川区口腔保健センターでは、障害者や有病高齢者の口腔ケア並びに接触嚥下の指導、口腔検査など、特に予防に関してかなり力を入れて行っている
- ・ブラッシング指導の歯科衛生士の派遣や講演を含めて、相談があれば何う
- ・民生委員として、地域に住んでいる障害者の方が万が一何かあれば、地域の住民と協力して対応できることで、地域のネットワークを構築していけるのではないかと思う
- ・江戸川区の障害児は、鹿本学園と白鷺特別支援学校で教育をしていたが、児童・生徒の増加に伴い、新たに江東区の特別支援学校も加わることになり、区内のみではなく、江東区と連携しなければならない動きが出ている
- ・ハローワーク木場では、障害者の方が就職に向けうまく定着でき、仕事を継続して続けられるよう、就労継続支援A型事業所や就労継続支援B型事業所、就労移行支援事業所、江戸川区就労支援センターと協力をしながら、区内の会社を斡旋できたらと思っている
- ・区内の会社の開拓や費用改革、実習の機会を設けるようハローワーク木場より会社に提案を進めている
- ・なごみの家について、障害者が気楽に行くことができるような体制にしていきたい
- ・なごみの家の利用について、親子で行って、子どもと関わってもらっている間に、親は周りの人の手助けできることを手伝ったり、話し相手になったりすることで、より地域の方に自分たちの子どもを知ってもらうことが理想
- ・区内の障害福祉サービス事業ごとに15の協議会や勉強会が行われており、障害福祉の質の向上を目指し、日々研鑽を進めている
- ・なごみの家を拠点とした地域共生社会を構築していくうえで、さまざまな障害のニーズに対し、専門職の連絡会などとも情報共有と連携を進めることが支援の質の向上を目指すうえで不可欠であり、そのために創造的な協議がされるネットワーキングと場の運営が大切
- ・精神障害の方で引きこもっている状態の人がかなり多くいて、想定としては患者数に対してセンターなどの利用はうまくできていないと思うので、まずは引きこもっている方に対する支援にも目を向けていただきたい
- ・情報共有を図り、いろいろと知らなかったことやわからなかったことを理解していくことは重要であり、そのためにコミュニケーションの場を日々とっていかなくてはならない
- ・なごみの家について、なごみの家にいろいろと提案をして、地域で変えていくことが重要

3 障害者への理解促進（地域住民の障害者に対する偏見を解消するために）【平成30年度第2回】

- ・当事者自身が積極的に様々な機関に「私たちの障害はこのようなことで、このような配慮が必要です」と訴えていくことが必要
- ・区民と障害者をつなぐ機関を充実させることで、交流の機会を少しでも増やすことが障害者理解の促進につながるのではないか

- ・視覚障害者を取り巻く環境は少しずつ良くなってきているが、見えないハンデを相手にどのように伝えるかが課題
- ・視覚障害者への生活サポート事業を立ち上げ支援を始めているが、今後、もう少し幅を広げ新しい事業を展開すれば、さらに区民の理解が深まるのではないか
- ・精神障害のある人は怖いイメージが強くあると思うので、そのような偏見を一つ一つ解消していただきたい
- ・知的障害や発達障害の生きづらさを地域の子もたちに知ってもらうための活動をしているキャラバン隊を、江戸川区でも行えるよう親の会で検討している
- ・精神障害当事者が、なごみの家を利用することにより、精神障害者への理解が着実に進んでいる
- ・精神障害者施設連絡会の意見より精神障害者への理解の具体例として、区民まつりへの参加、施設への地域住民の受け入れ、病気や障害の知識に関する講演会の開催、インターネットでの情報発信、障害者雇用個別支援を通じた生涯教育、地域活動サークル活動への参加、ギャラリーやフリーマーケットの開催などが挙げられた
- ・居住支援を行う中で、ひとり暮らしの物件を借りる際、不動産会社の許可が出ても大家から断られてしまうケースが多いことや、物件の家賃が上がって借りづらいなどが課題としてあり、なごみの家に相談できる関係を作っていきたい
- ・障害者施設の開所時は、近隣の方の偏見があったと思うが、日々の活動で散歩や買い物、町会行事の参加をして、交流を深めていく中で、少しずつ理解されてきたと感じる
- ・障害について不動産会社がどのように理解してくれているかという情報が福祉事業者になかなか行き渡らず探すことが難しいため、なごみの家でそういった情報共有ができればありがたい
- ・住まいについて、相談支援事業所では課題として挙がっていて、例えば住宅施策を所管する部署と連携をして何かできないのかと意見を出している
- ・理解促進をテーマとした意見交換などが継続して行える仕組みが必要
- ・なごみの家について、精神障害の方の利用は多く、最初はどのように接したらいいかなどがあったが、何回も経験をしていくうちに、お互いに心を開いて対応できていった事例もあり、その機会をいかに増やしていくかが成果であると思っている
- ・ハローワークでは企業に雇用を進めてもらうため、精神障害者・発達障害者雇用トータルサポーター出前講座として、精神障害や発達障害の特性や配慮について、会社で働く従業員に理解してもらうための講座を開催している
- ・障害のある子どもを知ってもらうため、特別支援学校と近隣の小中学校や高校と交流を行っている
- ・特別支援学校で宿泊防災訓練を実施して、地域の自治会にも参加してもらい、障害の理解につなぐことができた
- ・障害のある方と地域との関りが非常に少なく、お互いの通じ合うものが見出せないまま来てしまい、地域住民の理解が不足してしまっている
- ・地域住民として障害のある方に対して、どのようなことができるのかを発信して、それを受けて障害のある方も大いに活用して共有できればと思う

- ・障害の理解として、理解する場を育てるため、地区生活サポート事業として、少しずつ周りがサポートをして大きくしていくことが必要

4 障害者の社会参加（誰もが活躍できる社会へ）【平成 30 年 第2回】

- ・それぞれの方が持っている能力を引き出す支援をしていく機関が必要
- ・区民と障害者をつなぐ機関が充実していくことが必要
- ・身体障害者は、交通の便や保護者の高齢化などにより、社会に出ることが少ないかと思う
- ・中学校の実習で高齢者のデイサービスに行くことがあり、そのような福祉的就労を学校で視野に入れることで、社会参加も促進されていくのではないか
- ・精神障害当事者が、なごみの家を利用することにより、精神障害者の地域社会への参加が着実に進んでいる
- ・精神障害者施設連絡会の意見より、社会参加の取り組みとして、就労を通じた社会参加の支援、江戸川区障害者就労支援雇用促進フェアの開催や江戸川区産業ときめきフェア、江戸川区芸術フェスティバルへの参加などがある
- ・個人のニーズに合わせた社会参加の難しさとして、社会参加を求めている方もいて、これらの課題についてなごみの家と相談や連携を図りたい
- ・施設利用者の重度化や高齢化が進んでいる中、外に出ることが少しずつ狭まってきていると感じているが、ボランティアや絵の先生に来園してもらい、展示会や出店など社会参加につなげている
- ・可能な限り施設利用者の意思決定がかなえられるよう、外出や外食の機会が維持できるようにしたい
- ・生活訓練の事業所で音楽プログラムを行い、地域でボランティア活動として展開した
- ・社会参加をするときに、地域で必要なことは何か考えそれが提供できる仕組みとして、音楽を活用した
- ・社会参加をテーマとした意見交換などが継続して行える仕組みが必要
- ・ハローワークでは障害者雇用促進法に基づいて 1 週間の労働時間が 20 時間以上働けるよう企業に就職を斡旋している
- ・特別支援学級ではチャレンジ・ザ・ドリームに、2 年生と 3 年生が就労体験として参加させてもらっている
- ・副籍生徒について、間接的な交流にとどまり、直接的な交流ができるよう施設的なところで整えていければと考えていきたいと思っている
- ・産業ときめきフェアで特別支援学校の作業製品の設置を始め、販売も行う
- ・特別支援学校の近隣の中学校でふれあいサッカーなどや、地域で運動会やソフトボール大会などにも誘ってもらおう関係がある

- ・江戸川区の信金協議会を通じて、特別支援学校の製品の展示や販売に関する掲示など対応してもらっている
- ・地域の防災訓練に特別支援学校の生徒と先生で参加して、生徒自身が被災時に苦勞することを知ることやそのことを発信していくことができた
- ・東京都教育委員会の事業で地域貢献活動の推進校として、生徒たちが地域に積極的に貢献していくことにより、地域に役立つことや自尊感情を高められるよう活動している
- ・民生児童委員はひとり住まい調査として、江戸川区社会福祉協議会と共催し、障害のある方のご自宅を訪問することになり、その際になごみの家の話もしながら、お互いにさらに共有をして社会参加を可能にしたい
- ・江戸川区歯科医師会は、一之江にある口腔保健センターを通じて、口腔の健康維持として摂食嚥下と口腔ケアの2点に重きを置いた治療を重要視している
- ・口の中の健康維持に対する相談窓口として、代表の歯科医師を一人ずつ、なごみの家に派遣している
- ・いろいろな医療機関があるため、どういった治療ができるのか、どこにどういった医療機関があるかなど、情報提供していかななくてはならないかと思っていて、近年はホームページやパンフレットなどで情報提供を行っている
- ・医療関係者として、歯科医師、介護事業者などいろいろな方と関わり、情報共有していくことは重要

5 障害者の安心できる「住まい」(本人や家族の高齢化が進む中での対応策)【平成30年 第3回】

- ・お店や病院などに手話通訳者が派遣できないときは、電話リレーサービスやチャットで手話通訳を介する方法があればよい
- ・将来的に聴覚障害者もグループホームで暮らせるようになったらよい
- ・視覚障害者が安心して地域で生活できる環境には、支援者も必要である。制度上で同行援護などのサービスがあるが、それ以外にボランティア活動をしている団体などで、必要な場合に支援をしていただける方がいればよい
- ・視覚障害者福祉協会では、生活サポート事業を始動させたところである。できることは自分たちで行い、足りないところは行政の力を借りて、地域で支えられる社会であってほしい
- ・地域で生活を続けるために、障害者本人とその親の高齢化による問題が課題である
- ・障害者本人とその親の高齢化が進むとヘルパーなどを利用して生活を行わないと介護が成り立たない
- ・精神障害者が利用できる滞在型のグループホームがあるとよい
- ・生活保護を利用して自立したい人の支援はあるが、生活保護を利用せずに単身で自立した生活ができるシステムがあるとよい
- ・障害者本人と親の高齢化に伴い、介助が困難になるので、地域に身体障害者を対象としたグループホームがあるとよい

- ・育成会では、親亡き後では無く、みんなの20年後を考える誰でも参加できるセミナーを開催する
- ・障害当事者の高齢化や重度化の問題や重複障害者の居住系サービス資源の不足など、障害者が地域生活を行うには多くの課題がある
- ・住宅施策所管と居住支援の問題を継続的に議論・検討できる場が必要である
- ・入所施設から地域移行する際、医療機関や高齢者施設への橋渡しが難しい。熟年相談室が中心となっている地域連携会議に参加して情報を得ていきたい
- ・職員については、人材不足が継続しており、外国人労働者の受け入れを検討していかなければならない
- ・16年前に立ち上げた区内の重度身体障害者グループホームは入居者の終の住みかとなっている
- ・介助支援を行う施設の職員はなかなか集まらず、また、グループホームは夜勤があり、労働に見合う給与体系がなかなか算出できない。また、運営資金の問題でグループホームの新規開設は、難しい
- ・江戸川区居住支援連絡協議会において、居住系の支援を行っている事業者が参加できれば、より活性化するのではないかと
- ・住まいの基本計画にも、福祉サービスに関わる内容が盛り込まれていることを、事業者も意識する必要がある
- ・なごみの家において、住まいを含めた障害者の暮らしを地域課題と捉え、つなぎ役やコーディネーター役になり、様々な生活上の不安について応えていくことが課題である
- ・就労支援において、生活状況の把握や保護者との連携がないと、企業との連携調整ができない
- ・就労支援を行う際、住所不定の場合、仕事を紹介できないので、安心して住める場所を確保することが大事になる
- ・商店街連合会では、なごみの家の利用者に対してポイントカードのポイント付与に関係している。身近な商店街より担当者をつけて、商店街連合会となごみの家がより身近な関係になれるとよい
- ・子ども達が多く時間を過ごす学校も昼間の住まいといえる。
- ・歩行が困難な生徒が学校に通う場合には、スロープを設置し、安心して利用できるようにしている
- ・チャレンジ・ザ・ドリームなどでも、積極的に障害者施設を訪問し、障害者の住まいの問題について他人事にしないような取り組みが必要
- ・増加する医療的ケア児の支援について、学校に看護師を配置する支援体制の整備が必要だが、なかなか進まない
- ・民生委員として、障害者の声を地域の声として耳を傾けて、「何ができるか」や「何が必要か」を、なごみの家と論じていきたい
- ・民生委員と新聞販売店で情報共有を行い、異変があった際は、警察や熟年相談室に連絡して連携している

- ・江戸川区歯科医師会では、通院が難しい高齢者や障害者に、訪問診療を地域の診療室と口腔保健センターで行っている
- ・江戸川区医師会では、医療と介護が必要な高齢者の地域生活を進めるために、ホームページに在宅医療・地域包括ケアシステムのサイトを立ち上げた。また、医療・介護・行政機関が参加している在宅医療・介護医療連携推進会議において、今後の在宅医療の推進、研修会や質の向上、地域課題について話し合っている。
- ・地域での課題は多種多様であり、地域ごとに違うので、連携を深めて地域の課題を取り上げることが大切であり、そうした場の整備が重要である
- ・顔の見える連携を作り、地域で支える方や公共の方、医療関係者、専門職、当事者、家族が集まって、情報交換をして課題を取り上げて、少しずつ地域力を活性化させていく取り組みを行っていくとよい